

サンクトペテルブルグ フィルハーモニー交響楽団

指揮：ユーリ・テミルカーノフ

「イワン雷帝」、音楽は全然怖くありません

恐ろしげな肩書や絵姿を見て、こんな怖い皇帝が主人公になっている音楽なんかとても、と引き気味になっている方もおられるかもしれないが、このオラトリオで描かれる「イワン4世」には、未だいわゆる「雷帝」の雰囲気はほとんど無いのだ。全曲の最後は、彼の帰還を待望する群衆の大合唱で壮大に結ばれるのである。

その音楽には、もちろんダイナミックで劇的なものも多いが、その一方、いかにもロシア民謡的な雰囲気を持った曲も多い。最弱音で始まる合唱「草原はタタールに支配され」は、オペラ「戦争と平和」にも出て来るもので、筆者も大好きな曲なのだが、これはもう美しさの極みだ。また、チャイコフスキーの「1812年」でおなじみのロシア聖歌も聞こえて来る。意外に、耳に馴染みやすいオラトリオなのである。

そして原曲ではロシア語のナレーションがストーリーを紹介するのだが、これがそのままの形で上演される機会はなかなか無い。その意味でも今回は、実に貴重な機会と言うべきであろう。これは、テミルカーノフが是非とも日本でこの形により上演したい、という強い意向によって実現されたものだという。



そういえば、テミルカーノフが先輩ムラヴィンスキーの後任として、当時はレニングラード・フィルという名称だったこのサンクトペテルブルグ・フィルの音楽監督・首席指揮者となってから、今年でちょうど30年になる。早いものだ。

壮年の頃にはかなりアクの強い指揮で知られていた彼も、70代半ばになったあたりからは自然体の裡に深々とした情感や強い緊迫感を湛えるという、巨匠ならではの味を出すようになって来た。今では、指揮の身振りだけは「物静か」なものになったが、しかし彼がほんの少し腕を動かすだけで、オーケストラは怒涛の如く盛り上がり、揺れ動く。「眼」と「意志」の力だけで大軍団を制御する。まさに巨匠の芸である。

かつて学生ゲルギエフの才能を見抜き、「きみ、卒業したら僕の助手になれ」と一方的に通告、キーロフ（現マリンスキー）劇場でプロコフィエフの「戦争と平和」を上演した際に新人の彼をいきなり抜擢して指揮させた話、あるいは後年、「このままでは優れた才能がみんな国外へ流出してしまうぞ」と政府に掛け合い、歌劇場やオーケストラなど主たる音楽組織の給料を上げさせた話など、大胆な行動力を示すエピソードには事欠かないテミルカーノフ。その指揮表現も、今なお強靱な気魄に満ちる。

今回は、その彼が指揮する「イワン雷帝」――。

東条碩夫〔音楽評論〕

サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団

指揮：ユーリ・テミルカーノフ 合唱：東京音楽大学合唱団

2018年11月13日(火) 19:00開演 (18:20開場) **サントリーホール**

ロシア最高峰の巨匠が描き出す伝説の暴君の半生! (*18:30より音楽作家ひのまどか氏によるプレトーク有り。)



語り：ニコライ・プロフ

プロコフィエフ：オラトリオ「イワン雷帝」

日本語字幕付

S ¥20,000 A ¥16,000 B ¥12,000 (僅少) C、D 売切

《お申込》 **ジャパン・アーツ** ぴあ **03-5774-3040**

www.japanarts.co.jp

ジャパン・アーツ

検索

- ・サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017
- ・チケットぴあ t.pia.jp 0570-02-9999 (Pコード:109-028)
- ・イープラス eplus.jp
- ・ローソンチケット 0570-000-407 (Lコード:33930)

<首都圏近郊公演>

*「イワン雷帝」とは別プログラムとなります。

・11月11日(日) 文京シビックホール

・11月12日(月) サントリーホール

・11月14日(水) 川口総合文化センター

(問) シビックチケット：TEL 03-5803-1111

(問) ジャパン・アーツぴあ：TEL 03-5774-3040

(問) リリア・チケットセンター：TEL 048-254-9900

主催：ジャパン・アーツ

後援：ロシア連邦大使館